

# 景況調査

(平成30年7月～平成30年9月期)

平成30年7月～9月期の山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

平成30年7月～9月期の調査結果では、業況、売上高、採算の3指標の数値が低下した。

## 〈業況〉

業況DIは▲15.8で前回調査の▲11.9から3.9ポイント低下した。業種別では、小売業▲18.8(前回調査比▲6.3)、製造業9.1(前回調査比+18.2)、建設業▲40.0(前回調査比▲20.0)、サービス業▲25.0(前回調査比▲1.5)、卸売業25.0(前回調査比▲15.0)と製造業以外の業種で低下した。

10月～12月期見通しは全体で▲14.3であり、わずかに数値は上昇している。

## 〈売上高〉

売上高DIは1.8で前回調査より3.3ポイント低下した。業種別では、小売業6.3(前回調査

比+12.6)、製造業18.2(前回調査比±0.0)、建設業▲20.0(前回調査比▲30.0)、サービス業▲6.3(前回調査比▲0.4)、卸売業25.0(前回調査比▲15.0)であり、建設業、サービス業、卸売業が低下した。

10月～12月期見通しは全体1.8となっており、横ばいの見込である。

## 〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)DIは▲22.8で前回調査より10.7ポイント低下した。業種別では、小売業▲18.8(前回調査比▲6.3)、製造業▲18.2(前回調査比▲18.2)、建設業▲50.0(前回調査比▲10.0)、サービス業▲25.0(前回調査比▲13.2)、卸売業25.0(前回調査比+5.0)で卸売業以外の業種で低下した。

10月～12月期見通しは全体で▲12.5であり上昇の見通しである。

## 〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲8.9で前回調査と同じ数値であった。業種

別では小売業▲6.3(前回調査比+6.2)、製造業0.0(前回調査比±0.0)、建設業▲30.0(前回調査比+3.3)、サービス業▲6.3(前回調査比±0.0)、卸売業0.0(前回調査比▲20.0)であった。

10月～12月期見通しは全体で11.8であり、今回調査実績から上昇している。

## 〈その他の意見〉

・今夏の災害の多発(猛暑を含む)により思わぬ経費が発生し、予定の出費を手控えた。個人としても出ていないでしようか?その関連で建設業者等はよくなるのでしうか?人手不足がより深刻になるのでしょうか?

・働き方改革の声に従業員が期待ばかりさせられるものの、現実には官民需要の発注サイドは単価上昇どころかむしろ単価、量ともにマイナス方向に向ったままです。大手発注者の働き方改革で負担分を下請に回されて逆効果を受けている感覚。人手不足が深刻です。

